

「先導的大学改革推進委託事業」
獣医学教育の改善・充実に向けた調査研究

2019 年度成果報告

国立大学法人山口大学

目次

I. 事業概要	3
1. 事業の目的およびゴール	4
2. 事業の実施方法及び分析手法	4
(1) 実施方法	4
(2) 分析手法	6
II. 調査報告	8
1. 改革工程フォローアップ調査	9
(1) フォローアップ調査結果概要	9
(2) フォローアップ検討有識者会議検討状況・名簿・議事要旨	9
(3) フォローアップ調査結果詳細	10
(4) 資料	10
2. コアカリ改訂報告書	11
(1) 獣医学コアカリ改訂案の概要	11
(2) コアカリ改訂有識者会議検討状況・名簿・議事要旨	11
(3) 全国のコアカリ現状分析	12
(4) 資料	14

I . 事業概要

1. 事業の目的およびゴール

平成 20 年に設置された「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」(以下, 第 1 期協力者会議) は 3 年間の議論を行い, 平成 23 年に獣医学教育改革に関する提言として「獣医学教育の改善・充実について」(以下, 第 1 期報告書) を取りまとめ, 具体的方策として「国際水準の獣医学教育の実施に向けた改革工程」(以下, 改革工程) を報告した。その後, 十分に議論を行えなかった事項への対応や「改革工程」のフォローアップを目的として, 平成 24 年に第 2 期協力者会議が設置され, 2 年間の議論を経て, 平成 26 年に報告書が取りまとめられた(第 2 期報告書)。

現在(令和元年), 第 2 期報告書の公開から 5 年が経過し, 共同教育を実施してきたすべての大学が完成年度を迎え, 共用試験は全ての大学が受験し, (公財) 大学基準協会による獣医学教育評価も開始されるなど, 改革工程に沿った獣医学教育改革が著しく進捗している。また, 国際水準の獣医学教育実施に向けた獣医学教育モデル・コア・カリキュラム(以下, 獣医学コアカリ) の改訂作業も平成 30 年度から開始されている。このような状況を踏まえ, 獣医学教育改革の進捗状況をフォローアップ調査し, 今後の改善方針を決定することは緊喫の課題となっていた。

そこで本調査研究では, 改革工程フォローアップ調査と獣医学コアカリ改訂に関する調査研究を実施することを目的として実施した。「獣医学コアカリ」は「改革工程」の根幹をなしており, 両事業を並行して進めることで, 体系的かつ合理的な事業実施が可能となる。なお, とりまとめた改訂版獣医学コアカリは, 全国獣医学関係代表者協議会のホームページを通じて PDF で公開するとともに獣医系 17 大学へ周知を図り, 各大学の獣医学教育改善を促し, 今後もその実施状況についてフォローアップを継続することが必要である。

2. 事業の実施方法及び分析手法

(1) 実施方法

① 改革工程フォローアップ調査

本事業では, 13 名の委員からなる「改革工程フォローアップ調査検討有識者会議」(以下, 改革工程有識者会議) による定期的な会議を実施することで作業を進めた(必要に応じてメール審議を開催した)。具体的には, 事業期間中に 4 回の開催を予定していたが, コロナウイルス感染防止のため, 対面会議が 1 回開催できなかった。

○ 改革工程有識者会議による調査内容

改革工程有識者会議では、「改革工程」5本柱のうち、「獣医学コアカリの策定と実施」を除く、「教育研究体制の整備」、「分野別第三者評価導入・実施」、「共用試験導入・実施」、「附属動物病院・実習環境の改善」の4工程の進捗状況についてフォローアップ調査を実施し、コアカリ有識者会議と連携することで、全体として体系的な調査を行った。具体的な調査項目と内容については、改革工程有識者会議において議論し決定した。なお、フォローアップ調査対象は、獣医系17大学を対象とした。

○ シンポジウムへの参加並びに国際的獣医学教育の動向に関する調査研究

OIE(国際獣疫事務局)ならびに欧米の獣医学教育に係るシンポジウムが、委託期間中に開催されることとなった場合は、積極的に参加し、国際的な獣医学教育に係る情報の取得に努め、調査方法へ適宜取り入れる予定であった。そのため、2020年3月にアメリカで開催されたAAVMC(アメリカ獣医系大学協会)総会へ出席予定であったが、コロナ感染防止の観点から、急遽、出席を取りやめた。一方、コロナ感染防止対策が開始される前の、同年2月には欧州獣医学教育機関協会(EAEVE)のDr. Martinot会長を訪問し、我が国が取り組む国際水準の獣医学教育に関して意見交換を行い、獣医学教育の国際的標準化に向けた取組について調査した。なお本調査研究は、コアカリ改訂調査研究とあわせて行うことで、効率化を図った。

② 獣医学コアカリ改訂に係る調査研究

本事業では、13名の委員からなる「獣医学コアカリ検討有識者会議」(以下、コアカリ有識者会議)および5名の委員からなる「コアカリ有識者会議ワーキンググループ」(以下、コアカリ有識者会議WG)により、定期的な会議を実施することで作業を進めた(必要に応じてメール審議を開催した)。具体的には、コアカリ有識者会議は事業期間中におよそ6回、コアカリ有識者会議WGは事業期間中におよそ4回の開催を予定していたが、コロナウイルス感染防止のため、それぞれ4回と3回の開催となった。

○ コアカリ有識者会議による調査研究内容

コアカリ有識者会議では、平成30年度に実施した獣医学コアカリ案に係るアンケート調査における調査項目・内容を検討することで、獣医学コアカリ案の改善点等が的確に把握できる調査項目およびその内容を、構成員の合意の下で策定した。また、その策定内容に沿って調査研究を実施し、改訂版獣医学コアカリ案を策定した。

○ 獣医学コアカリ案に係るアンケート調査

獣医学コアカリ案に係る第2回アンケート調査を、導入分野、基礎獣医学分野、病態獣医学分野、応用獣医学分野、臨床獣医学分野の5分野を含めて実施した。アンケート調査は、獣医系大学として17大学・約700名（各大学約40名程度）に加え、ステークホルダーとして日本獣医師会からの意見聴取も行った。

○ シンポジウムへの参加並びに国際的獣医学教育の動向に関する調査研究

OIE（国際獣疫事務局）ならびに欧米の獣医学教育に関係するシンポジウムが、委託期間中に開催されることとなった場合は、積極的に参加し、国際的な獣医学教育に係る情報の取得に努め、調査方法へ適宜取り入れる予定であった。そのため、2020年3月にアメリカで開催されたAAVMC（アメリカ獣医系大学協会）総会へ出席予定であったが、コロナ感染防止の観点から、急遽、出席を取りやめた。一方、コロナ感染防止対策が開始される前の、同年2月には欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）のDr. Martinot会長を訪問し、我が国が取り組む国際水準の獣医学教育に関して意見交換を行い、獣医学教育の国際的標準化に向けた取組について調査した。なお、本調査研究は、改革工程調査とあわせて行うことで、効率化を図った。

（2）分析手法

① 改革工程フォローアップ調査

上記の実施方法に基づいて集積したデータを、改革工程有識者会議で精査し検討することで、各大学における改革工程進捗状況を取りまとめた。その後、フォローアップ調査の結果とその分析案を獣医学関連諸団体へ提示し、各団体の意見を聴取した。最終的に、調査結果・分析案とそれに対する獣医学関係の各団体意見等を考慮し、改革工程の進捗状況に関する課題等を分析・整理したうえで、令和元年度内に改革工程有識者会議で最終の合意のもと、各種団体のコンセンサスを得た調査・分析結果とする予定であった。しかし、コロナ感染防止のため、各種団体の総会が令和元年度中に開催されなかったことから、最終的に令和2年5月22日の全国大学獣医学関係代表者協議会総会（Web開催）で了承を得た。

② 獣医学コアカリ改訂に係る調査研究

上記の実施方法に基づいて集積したデータを取りまとめ、コアカリ有識者会議およびコアカリ有識者会議WGで我が国の獣医学コアカリに取り入れるべき内容について精査検討することで、獣医学コアカリ改訂案を作成し、アンケート調査を実施した。アンケート調査結果ならびに私案は、全国の獣医学教育に携わる教員ならびに獣医学関連諸団体へ提示し、可能な限り直接意見聴取を行った。集約された意見は、有識者会議で再度検討し、精査することで、有識者会議構成

員の合意のもとで獣医学コアカリ改訂内容を決定した。改訂内容の一部は英文化しており、我が国の国際水準の獣医学教育実施状況を、諸外国に向けて発信する予定としている。

なお、これらの分析並びに検討においては、ホームページに公表して全国の獣医学関係者の意見も聴取した（パブリックコメントの実施）。

II. 調查報告

1. 改革工程フォローアップ調査

(1) フォローアップ調査結果概要

獣医学教育改革工程フォローアップ調査結果概要について、次に示す。

獣医学教育改革工程フォローアップ調査結果概要（令和元年）					
獣医学教育改革5本柱	教育研究体制充実	獣医学コアカリ策定・実施	分野別第三者評価導入・実施	共用試験導入・実施	附属家畜病院・実習環境の改善
H24年進捗状況	山口・鹿児島共同学部帯広・北海道共同教育課程	コアカリ検討委員会設置改訂版獣医学コアカリ作成獣医学共通テキスト刊行開始各大学のカリキュラム見直し	評価基準の案の提示実施体制・方法の検討自己点検・評価の試行案大学基準協会の協議	獣医学共用試験委員会設置試験内容・評価法の検討実施体制などの検討試験内容案や評価基準案の提示	参加型臨床実習検討委員会設置参加型臨床実習ガイドライン検討臨床実習内容の整理病院・実習環境改善方策の検討
H28年への設置目標	共同獣医学部の推進更なる体制の充実	獣医学コアカリの見直し各大学のカリキュラム見直し	評価基準の確定トライアル評価の実施第三者評価の本格実施	共用試験の正式実施	病院・実習環境の充実臨床・衛生実習体制整備外部機関連携教育確立
令和元年実施状況	共同教育課程(研究科/専攻): 帯広・北海道, 山口・鹿児島, CV受審: 駒鹿, 受審検討: 府大 単独教育課程: 国公立3大学, 私立6大学 EAEVE教育認証: 完全認証: 帯広・北海道, 山口・鹿児島, CV受審: 駒鹿, 受審検討: 府大 新大学獣医学部設置予定(府大) 教員数(特命除く): 国公立27~47名, 私立43~72名 研究体制: 各大学の自発努力, 外部資金により研究維持	獣医学コアカリに即したカリキュラムの実施: 全大学で獣医学コアカリに即した講義・実習を基本的に実施, アドバンスカリキュラムの扱いは, 大学によって異なる。 獣医学コアカリの改訂: 平成30年度から改訂作業を開始し, 令和元年度末に改訂終了。獣医学教育により養成する獣医師像を策定。 共通テキスト刊行: 51科目中44科目刊行済 (pdf配布含む) 7科目刊行準備中。複数の教科書で改訂版発刊や発刊準備。	評価基準の策定: 大学基準協会に獣医学教育評価委員会を設置し, 評価基準の策定, 実施方法の策定と提示, 評価実施を担っている。 第三者評価の本格実施: 平成28年にトライアル評価の実施後, 平成29年より本格実施。29年度1大学, 30年度4大学 (1共同学部含む), 令和元年度2大学が受審。受審した7大学全てに7割以上の判定。EAEVEによる教育認証: 4大学認証獲得。1大学CV実施, 1大学受審検討中	共用試験の正式実施: 知識を問うvetCBTと技能を問うvetOSCEを構成し, 平成26年からトライアル試験を開始, 平成29年から正式実施。共用試験実施母体の設置: 実施母体としてNPO法人獣医系大学獣医学教育支援機構を設置。問題作成には, 全国の獣医系教員が協力して作成継続実施状況: 平成29から3回正式に実施されており, 合格率は高いvetCBT 99.4~99.7%合格vetOSCE 99.7~100%合格	病院・実習環境の整備状況: 伴侶は全大学で施設整備と診療数確保。産業動物は全体的に診療数・施設不足。診療スタッフに大学増産。参加型臨床実習実施状況: 概ね実施されている。ログブック活用など実習の工夫。 病理解剖実施状況: 多くの大学で伴侶動物・産業動物ともに不足。外部機関との連携状況: 多くの大学で家畜保健所やNOSAI等と連携。産業動物PGやVCampによる臨床・衛生実習体制構築
今後の課題と目標	共同教育課程: 教育設備の更新, 学生・教員移動費用の捻出, 教員数維持が課題 単独教育課程: 教員数の不足, 産業動物臨床等の実習施設不足 大学院の設置: 国際認証取得の目標設置により教育環境に差を自覚 目標: 共同教育体制の維持と国際認証の継続, 全ての大学において国際水準の教育体制を構築。	教育実習体制の構築: 一部大学で教員数が不足し, 獣医学コアカリ実施に非常勤教員が必要 コアカリアドバンス: アドバンスカリキュラムの認識が統一されていない 共通テキスト: 一部科目で共通テキストが作成されていない 目標: 継続的な教育改革。獣医学教育により養成する獣医師像を念頭に獣医学コアカリを実施。	未実施大学: 17大学中7大学が終了。令和5年度までに7大学実施予定だが, 3大学は未定。 改訂版コアカリへの対応: コアカリ改訂に伴う評価内容の検討が必要 評価基準の周知: アドバンス教育の定義を決定し周知する 目標: 全大学の第三者評価を完了し, 意見および改訂版コアカリをもとに評価方法と体制を見直す。	vetCBTの課題: 受験料, 出題範囲, 国家試験との関係性 vetOSCEの課題: 評価実施者の質保証と評価方法の改訂, 標準クワイアートの確保, 教育および質保証試験実施効果の検証 目標: 広く社会にも実施意義と期待される効果について周知, 開始後10年を目標に諸問題を精査, 学生意見も反映。	病院・実習施設: 一部, 産業動物診療施設の設定・整備が必要。 実習実施環境: 診療等スタッフ増による診療支援体制, 一部, 産業動物診療数や病理解剖実施数不足。 実習実施環境: 診療スタッフ・サポートスタッフ増による診療支援体制目標: ハード面のみならず, 診療体制の充実, Day one competencyを明確にし評価システムを確立。

充実した獣医学教育の実施と自立的な教育改善を促す質保証システムの構築

全大学における国際水準の獣医学教育の提供

(2) フォローアップ検討有識者会議検討状況・名簿・議事要旨

①改革工程フォローアップ調査検討有識者会議（改革工程有識者会議）メンバー

折戸 謙介 (麻布大学), 久和 茂 (東京大学), ○佐藤 晃一 (山口大学・委員長), 嶋田 照雅 (大阪府立大学), 鈴木 浩悦 (日本獣医生命科学大学), 滝口 満喜 (北海道大学) 中山 智宏 (日本大学) 中山 裕之 (東京大学), 芳賀 猛 (東京大学) 堀 達也 (日本獣医生命科学大学) 堀 正敏 (東京大学) 村上 賢 (麻布大学), 山岸 則夫 (帯広畜産大学)

②改革工程フォローアップ調査検討状況（会議実績一覧）

- 第1回改革工程フォローアップ調査検討有識者会議
 - ・日時: 2019年11月12日(火) 9:00~11:00
 - ・場所: 東京大学農学部フードサイエンス棟 1F 大会議室
- 第2回改革工程フォローアップ調査検討有識者会議
 - ・日時: 2020年1月21日(火) 9:30~11:35

- ・場所：東京大学農学部フードサイエンス棟 1F 大会議室
- 第3回改革工程フォローアップ調査検討有識者会議
- ・日時：2020年2～3月（新型コロナ感染防止のため中止）
- 第4回改革工程フォローアップ調査検討有識者会議
- ・日時：2020年3月24日（火）
- ・メール会議

③改革工程フォローアップ調査検討有識者会議議事要旨

○第1回

以下の事項について検討を行い、実施方針を検討するとともに、次回までの作業内容が決定した。

1) 改革工程有識者会議委員の紹介, 2) 獣医学教育改革工程フォローアップ調査事業の方針の決定, 3) 具体的な調査実施方法の決定, 4) その他: 今後のスケジュール検討

○第2回

以下の事項について、各分野の調査実施状況の報告と討議を行い、調査報告書の作成方針が決定し、委員長より次回会議までに作成することが依頼された。

1) 前回議事の確認, 2) 獣医学教育改革工程フォローアップ調査実施状況の報告と精査: (1)教育研究体制の整備状況, (2)分野別第三者評価導入・実施状況, (3)共用試験導入状況, (4)附属動物病院・実習環境の改善状況, 3) その他: 今後のスケジュール決定

○第4回

新型コロナウイルス感染防止の観点から対面での会議開催ができなかったことから、フォローアップ調査報告書(案)についてメール会議し、内容を決定した。

(3) フォローアップ調査結果詳細

教育体制整備状況、附属動物病院・実習環境の改善状況、共用試験導入・実施状況、分野別第三者評価導入実施状況については、別添資料1として報告する。

(4) 資料

別添資料1「獣医学教育改革工程フォローアップ調査」検討まとめ

2. コアカリ改訂報告書

(1) 獣医学コアカリ改訂案の概要

獣医学コアカリ改訂案の概要について、次に示す。

獣医学コアカリ改訂案の概要（令和元年）

獣医学コアカリ設置の趣旨（平成23年）

- ・社会の要請に応え得る人材を育成するために獣医学教育システムの改善・充実を求めるのであれば、獣医学教育とは何か、教えるべき標準的教育項目は何かを明示する必要あり
- ・学生に対し、具体的な到達目標（ラーニングゴール）を明示した詳細なカリキュラムの内容（シラバス）と教育手法を明示しておくことが不可欠
- ・全国大学獣医学関係代表者協議会で合意された「獣医学専門教育課程の標準カリキュラム」（2004年4月）をもとに51科目を選択して獣医学コアカリを策定
- ・2010年のOIEミニマム・コンピテンシーをできる限り反映
- ・6年間の履修年限の中で獣医学として教えるべき3分の2程度の内容を示し、各大学は残りの3分の1の内容を大学独自の理念や社会的要求に基づいて実施できる内容にする
- ・獣医学コアカリとは、大学卒業時までに身につける必要不可欠な知識を精選した教育内容のガイドラインであって、具体的な到達目標を明示することによって分野ごとの教育内容とレベルを確保する

獣医学コアカリ初回改訂趣旨（平成24年）

- ・平成28年度から実施予定の獣医学共用試験に向けての準備として改訂
- ・共用試験には出題されない到達目標に「△」印を付すとともに、一部の到達目標の削除、移動、臨床科目の総論部分の統一化、そして文書の修正を実施

獣医学コアカリの問題点・改訂の目的と方針（令和元年）

- ・前回の改訂後、2013年にはOIEの推奨コアカリが提示されるなど、国際的な獣医学教育に対する要請への対応
- ・動物福祉に配慮した実習となるように修正が必要
- ・教授すべき到達目標が多すぎるため、獣医学コアカリだけではほぼ全てのカリキュラムが終わってしまい、大学独自の教育が困難となっている現状への対応
- ・獣医学コアカリにアドバンストの内容が入ってしまっていることや、複数科目で同じ到達目標が設定されていることへの対応
- ・獣医学コアカリが共用試験のガイドラインと誤認識されていることへの対応
- ・獣医学教育によりどのような獣医師を養成したいかが提示されていない
- ・これまで、医学・歯学分野の例にならって、学科目にとられない包括的なモデル・コアカリキュラムを策定しようとの議論もあったが保留されてきたため、引き続き検討
- ・日本の獣医学教育を世界に発信

獣医学コアカリ改訂概要（令和元年）

- 1. 国際的獣医学教育への対応**
 - ・OIEの推奨コアカリを念頭に必要事項の追加
- 2. 講義科目到達目標数の削減**
 - ・科目間で重複した到達目標の排除やアドバンスト内容の削除により、到達目標を約30%削減（平成24年度版到達目標,2279個、令和元年度版1,635個）
- 3. 実習コアカリの修正**
 - ・動物福祉に配慮した実習へ項目を修正するとともに配慮困難な項目を削除
 - ・これまでのコアカリ同様に、実習コアカリにおいては、各大学で必ず実施すべきコアの項目は、一般目標として記載
 - ・到達目標に関しても、各大学は動物福祉に配慮し、利用可能な設備、教育環境ならびに実習期間などを考慮して実施することを記載
 - ・総合参加型臨床実習コアカリにおける到達目標は包括的に記述しており、各大学はこれをコアとみなして実施するよう記載
- 4. 共用試験出題範囲の削除**
 - ・獣医学教育支援機構を中心に共用試験問題の作成や検討が行われており、共用試験の範囲はその中で検討するべきと判断し、共用試験の出題範囲「△」を削除
- 5. 獣医学教育により養成する獣医師像の提示**
 - (1) 獣医師プロフェッショナリズム
 - (2) 獣医学の知識と問題解決能力
 - (3) 良質な獣医療の提供とその安全管理
 - (4) 社会との適切な関係の構築と獣医学の実践
 - (5) 安全で安心な畜水産資源確保とOne Healthへの対応
 - (6) 科学的探究力
 - (7) 人格の形成と自律的生涯学習
- 6. 獣医学コアカリの英文化による日本の獣医学教育の世界への発信**

獣医学コアカリにおける今後の課題等

- 1. 一般目標・到達目標の精査**
 - ・国内外で絶えず変化していく獣医学教育に対応するため、状況に合わせて引き続き目標の精査を行う必要がある。
 - ・特に臨床系科目については、科目間で重複した目標の精査について引き続き調整の検討を要する。
- 2. 包括的獣医学コアカリの策定**
 - ・平成23年度から検討されてきた科目（分野）横断型の包括的獣医学コアカリが策定できない。引き続き検討を要する。

(2) コアカリ改訂有識者会議検討状況・名簿・議事要旨

① 獣医学コアカリ検討有識者会議（コアカリ有識者会議）メンバー

○猪熊 壽（帯広畜産大学）、苅和 宏明（北海道大学）、久和 茂（東京大学）、昆 泰寛（北海道大学）、○佐藤 晃一（山口大学・委員長）、志水 泰武（岐阜大学）、○鈴木 浩悦（日本獣医生命科学大学）、○滝口 満喜（北海道大学）、○芳賀 猛（東京大学）、三澤 尚明（宮崎大学）、森田 剛仁（鳥取大学）、巨敏広（日本大学）、山下 和人（酪農学園大学）、○コアカリ有識者会議 WG 委員

② 獣医学コアカリ改訂検討状況（会議実績一覧）

○第1回コアカリ有識者会議

- ・日時 2019年9月12日(日) 9:30~10:30
- ・場所：つくば国際会議場小会議室 304

○第1回コアカリ有識者会議 WG 会議、第2回コアカリ有識者会議

- ・日時：2019年10月20日(日) 10:00～12:00, 13:00～15:20
- ・場所：東京大学農学部フードサイエンス棟 1F 大会議室
- 第3回コアカリ有識者会議（コアカリ有識者会 WG 会議を含む）
- ・日時：2019年12月15日(日) 10:00～14:00
- ・場所：東京大学農学部フードサイエンス棟 1F 大会議室
- 第4回コアカリ有識者会議（コアカリ有識者会 WG 会議を含む）
- ・日時：2020年2月1日(土) 13:00～15:30
- ・場所：東京田町 CIC 2階 多目的室 3

③コアカリ検討有識者会議およびコアカリ有識者会議 WG 議事要旨

○第1回：令和元年度委員の紹介の後、以下の事項について検討を行い、実施方針を検討するとともに、次回までの作業内容が決定した。

1) コアカリ改訂経緯の情報共有, 2) 実施予定の協議と決定, 3) 今年度検討事項

○第2回：以下の事項について、各分野の改訂作業実施状況の報告と討議を行い、改訂方針が決定し、委員長より次回会議までに作成することが依頼された。

1) 現行コアカリ（学系カリキュラム指針）の改訂進捗状況, 2) コアカリキュラムの考え方, 3) コアカリ英文化, 4) 今後のスケジュール

○第3回：以下の事項について協議を行った。1) 改革工程有識者会議との情報共有, 2) 現行コアカリの改訂確認と獣医師の資質・能力の意見集約, 3) コアカリキュラム改定方針の転換, 4) 現行コアカリの修正依頼, 5) コアカリ英文化

○第4回：以下の事項について協議を行った。1) コアカリ改訂責任者への改定依頼状況, 2) コアカリ改訂責任者への英文化依頼状況と問題点, 3) 新コアカリ項目 A の意見集約状況と取扱, 4) コアカリ改訂内容の分析及び検討に関する、提示とパブコメ実施, 5) 今後の作業内容

●第1回有識者会議 WG 会議：以下の事項について検討し、有識者会議へ上申した。1) コアカリキュラムの考え方について, 2) コアカリ英文化について, 3) 今後のスケジュールについて

(3) 全国のコアカリ現状分析

①共同教育課程および単独教育課程の獣医学教育実施状況

全国の獣医学関係大学においては、獣医学教育モデル・コア・カリキュラム（獣医学コアカリ）の実施を基本に教育改革が進められ、カリキュラムや教員組織は獣医学コアカリが実施できるように設計されている。

国立大学の8校では、獣医学コアカリを実施するために4つの共同教育課程を設置している。なかでも、2つの共同教育課程においては、EAEVE（欧州獣医学教育機関協会）の認証を受けており、国際水準の獣医学教育を実践している。3つの国公立大学単独教育課程においても、獣医学コアカリへの対応は行われている。一方、共同教育課程においては、遠隔講義または学生や教員の移動による講義や実習が行われているが、遠隔講義システムの更新、学生や教員の移動費用の捻出、教員数の維持が問題となっており、今後それらへの対応が求められている。また、複数の国公立大学において、大動物臨床等の教育施設や教員数の不足が見られる。私立6大学は現在いずれも単独教育課程を実施している。学是や立地条件などの違いから、私立大学の教育にはそれぞれの大学の特色があるものの、獣医学コアカリに対応した教育を実践している。なお、1校がEAEVEの予備審査（Consultative Visitation）を受審しており、数年後の本審査へ向けた準備を開始している。

このように、全ての大学において獣医学コアカリを実施しているが、いくつかの大学で、臨床実習施設、教員数、病理解剖検体数などに不足が見られ、十分な獣医学教育の実施のためにはさらなる財務的基盤や外部支援施設の確保などが必要となっている。

②獣医学コアカリへの対応状況

基礎系分野の講義および実習、病態系分野と応用系分野の講義、臨床系分野の講義および実習に関して、多くの大学で獣医学コアカリに対応している。一方、病理解剖実習に関しては、動物種や剖検数の点で、いくつかの大学では改善が必要とされ、特に国際認証を目指す大学においての課題となっている。臨床系分野では、いくつかの大学では国際認証にあわせた、総合参加型臨床実習に重点をおいた実習体系がとられており、外部連携機関の協力が必要となっている。この様に、基本的に全ての大学で獣医学コアカリに沿った講義および実習が行われているが、教員数減により専任教員を確保できていない科目が存在すること、実習経費や施設・設備の維持更新経費の確保が困難なことなど、今後の課題も残されている。

③総括

各大学で獣医学コアカリに対応するための努力がなされ、それに準拠した講義および実習が行われることで、全国の獣医系大学で一定水準の獣医学教育が行われている。一方、国際認証を目指した大学とそれ以外の大学で、病態・応用・臨床の教育、施設・設備、連携先において差異が生じている。

今後は、各大学の特徴を生かしつつ、平成23年に「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」により示された「国際水準を目指した獣医学教育の改善・充実」に対する方針を再確認し、更なる改善を行う必要がある。あわせて、国としても息の長いフォローアップを行うとともに、必要に応じた後方支援をすることが、獣医学教育の質向上と社会の要請に応える人材育成の貢献に必須である。

(4) 資料

別添資料2 「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム（日本語版）」

別添資料3 「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム（英語版）」

別添資料4 「獣医学教育により養成する獣医師像」